

スポーツ庁委託事業：成果報告書

国立大学法人 筑波大学

◆はじめに

現在、日本は成熟社会を迎えています。高度経済成長以降、経済や産業の発展は停滞し、世界でも類を見ない未曾有の少子高齢化を迎え、急激なテクノロジーの進化と共にグローバル化の波は止まることなく広がり続けています。このような新しい変化の時代においては「次世代を担う人材の育成」こそが、これからの社会における最大の資産となることに疑いがありません。従来の教育だけでなく、新たな教育、「世界標準の教育」が求められていきます。大学をはじめとした日本の学校教育機関が担う役割は益々大きくなるのです。

そのような中、「スポーツ」に目を向けると米国や欧州を中心としたスポーツは近年あらゆる分野で世界レベルでの大きな発展を見せており、単に競技育成に止まらず「国や地域を巻き込んだコミュニティの醸成」、そして「次世代の人材育成」に極めて大きな役割を担っています。特に米国ではスポーツ産業そのものが米国経済を牽引するほどの大きな発展を遂げており、中でも「大学スポーツ」の発展は目を見張るものがあります。これは米国の大学が学生たちのスポーツ活動を「正式な教育活動」と明確に位置付け、細部までマネジメントし、スポーツの取り組みそのものを「大学経営」に明確に結びつけていることから生まれています。また、この発展の背景には、肉体や栄養、動作という競技を問わず共通する「個別要素の専門性や研究」がテクノロジーと共に飛躍的に向上していることと連動しています。つまり、スポーツは総合科学であり、現代社会の鍵となるテクノロジーの発展と共に「大学の研究と結びつきながら」各大学で大きな発展を遂げているのです。

筑波大学において、こうしたテクノロジーや各種専門分野の研究は世界最先端を行くものでありますが、大学スポーツの活動としてこうした研究成果を横断的に活用する共通フォーマットはありません。そのため、個々の部活動に個別のノウハウが蓄積されてしまい、その総合的なポテンシャルは今も眠っている状態です。そして、それは日本の全ての大学で同様であり、これらは大学スポーツをはじめとした学校のスポーツ活動が全て「課外活動」＝「学校のマネジメント外にある」という根本的な問題点に起因しており、経営レベルでスポーツをマネジメントしている米国の

大学に大きく遅れをとる形で日本における大学スポーツの価値そのものを眠らせてしまっているというのが実態です。

これからの急激な社会情勢の変化において、大学をはじめとした教育機関の役割が大きくなること、そして世界ではスポーツによって学校教育を巻き込んだ改革がめざましく行われていること。筑波大学はこのことを分析し、日本の大学でも

- ・大学スポーツが安全に正しく行われること
- ・大学スポーツの課題解決を通じて眠っている価値をアクティベートすること
- ・他大学における同様の課題を解決するモデルケースになること
- ・学生たちが努力・奮闘する場が、より広い社会的な支持を得ること
- ・産学連携による経済的な支援を背景に、家庭環境に関わらず大学でスポーツを行う機会が提供されること
- ・スポーツが筑波大学の理念を体現し、社会に発信すること
- ・日本の未来を支える立派な若者が育つこと

これらのことを実現する「学長直下のプロジェクト」を立ち上げることを決定しました。それが大学スポーツを学内でマネジメントする専門部局「アスレチックデパートメント」の設立です。

筑波大学は「体育専門学群」というスポーツの学部を持つ責任ある大学です。これからの新しい社会において、日本の未来を担う人材が「世界標準の大学スポーツ」に関わりながら成長し、大学と地域社会とが密接に結びつき、特別なコミュニティを創造し続ける。

その様な未来に向け、本プロジェクトを起こすに至りました。

本成果報告書が、同様の活動を行う日本全国全ての大学にも寄与することができればこの上なく幸いです。

◆概要

まず本プロジェクトの立ち上げに際して筑波大学が行なったのは「米国大学の研究」です。

- ・米国の大学で何が起きているのか。
- ・世界標準の大学スポーツとは何か。
- ・日本の大学で展開できるものは何か。

この様なことを調査し、日本でも展開するために筑波大学は以下の3つのステップを準備しました。

1：研究

筑波大学、米テンプル大学、株式会社ドームで包括提携を実現、テンプル大学を中心に米国大学の実態を調査し、同大学のコンサルティングを受け、日本の大学が取り組むべき設計を明らかにしました。

2：「準備室」の設置

筑波大学内にスポーツを正式な教育活動としてマネジメントする学長直下の部局「アスレチックデパートメント」を作るための「準備室」を設置しました。

3：アスレチックデパートメントの設立へ

複数の部活動と提携し、大学内外の資金を準備し、部局の土台を定義し、「アスレチックデパートメント」を設立する道筋を作りました。

米国では大学スポーツ活動のうち、各大学で平均19程度の種目が「大学の正式な課内活動」に位置付けられており、アスレチックデパートメントがマネジメントしています。重要な点は「全ての部活動ではなく、特定の部活動が参画していること」です。ここで、日本における大学では「将来どの程度の数の部活動をアスレチックデパートメントに参画するか」その実現には「どの程度の予算が必要か」などの設計も必要になります。また、アスレチックデパートメントに所属するチームは「ロゴ」「マスコット」「カラー」「ユニフォーム」が全て統一されています。それら

が学内や地域とも結びついて展開されています。このことも本プロジェクトには欠かすことのできない点です。

そして、米国の大学では大学の出身者を問わず、学内外から様々な実績を持つ外部人材が大学アスレチック部門に参画していることも見逃すことができない極めて重要なポイントです。

これらを踏まえ、筑波大学では「アスレチック部門設置準備室」を2017年8月1日に設立、米国スポーツに極めて高い見識を持ち、大学スポーツ全体のブランディングパートナーとしても連動が可能な「アンダーアーマー」の日本総代理店である株式会社ドームと提携、その代表である安田秀一代表取締役社長を設置準備室長に招聘し、大学教授や職員と共にプロジェクトを始動しました。

また、9月にはさらに外部から異なる専門分野を持つ2名のスポーツアドミニストレーターも招聘、そこに大学院生や他学群の教授陣も加えながら、学内全体のプロジェクトチームとなってアスレチック部門設立のプロセスを開始しました。

次章にて、各取り組みを列記致しますが、今回のプロジェクトはその全ての活動において「日本の全ての大学のモデルとなること」を掲げてスタートしています。

国立大学と私立大学の違いや、スポーツ学部の有無などの差異はありますが、これらの取り組みは等しく日本の大学に寄与できるものと確信しております。

◆実践

以下の構成で筑波大学はアスレチックデパートメントの設立準備を行った。

1. 筑波大学が保有する理念の共有

まず、筑波大学内に新たな部局としてアスレチックデパートメントを立ち上げるにあたって、立ち上げに関わる全ての関係者が筑波大学の示す理念についてよく理解し、その理念に基づいてアスレチックデパートメントの方向性を定める必要がある。

筑波大学は、基礎及び応用諸科学について、国内外の教育・研究機関及び社会との自由、かつ、緊密なる交流関係を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行い、もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、学術文化の進展に寄与することを目的とする。

従来の大学は、ややもすれば狭い専門領域に閉じこもり、教育・研究の両面にわたって停滞し、固定化を招き、現実の社会からも遊離しがちであった。本学は、この点を反省し、あらゆる意味において、国内的にも国際的にも開かれた大学であることをその基本的性格とする。

そのために本学は、変動する現代社会に不断に対応しつつ、国際性豊かにして、かつ、多様性と柔軟性とを持った新しい教育・研究の機能及び運営の組織を開発する。更に、これらの諸活動を実施する責任ある管理体制を確立する。

大学におけるあらゆる活動は大学の理念の実現のために行うものである。

これらの「筑波大学が掲げた理念」を実現するためにアスレチックデパートメントを設立することを確認した。



2. 包括的パートナーシップ契約とテンプル大学との共同研究

はじめに筑波大学は最先端の大学の取り組みを学ぶために、2016年11月に米国アンダーアーマーの日本総代理店である株式会社ドームとの包括的パートナーシップ契約として、スポーツを通じて社会、地域、学生生活をより豊かにすることを共通の大義とし、スポーツの産業化や国民の健康増進、未来を支える人材の育成に資することを目的として、日本の国立大学として初めてスポーツアパレルブランドとパートナーシップ協定を締結した。本協定では、筑波大学が日本の大学の先頭に立ち、既に米国アンダーアーマーとともに大学スポーツの産業化を実現しているテンプル大学（本部：米国ペンシルベニア州フィラデルフィア）の協力を得ながら、共同研究を推し進めることとした。テンプル大学との共同研究については2016年9月より開始されており、2017年3月に研究成果の中間報告会、2018年3月に最終報告会を実施し、研究成果の報告を行った。



3. 芸術専門学群との「スポーツエンブレム」の策定

続いて筑波大学は大学の象徴となる「スポーツエンブレム」の策定を行った。スポーツエンブレムの検討には「筑波大学芸術専門学群」の協力を仰ぎ、「体育専門学群」や「体育会」の枠を超え、大学が一体となってこれを創るように務めた。その結果、筑波大学のスポーツを学内外に伝えていくためのシンボルとして、校章である「五三の桐」の伝統・硬質さ・まじめさと、「IMAGINE THE FUTURE.」として大学が掲げる未来構想・新しいフォルム・創造性を併せ持ち、逆三角形の力強いたたずまい、トロフィーのようなずっしりとした重厚感、そして未来に向かって切り進むスピード感を表現したデザインが出来上がった。



4. フューチャーブルー・ユニフォームの整備

包括的パートナーシップ協定ではスポーツを軸に日本の教育を世界基準に変革していく取り組みとして、体育会運動部の安全で適切な運営や学校のブランディングを行い、また学校が持つ施設など巨大な資産を有効活用することで収益を生み出すことで、教育現場に再投資することを目指している。

その一つの施策が「つくばブルー（通称：フューチャーブルー）」のカラーで統一され、スポーツエンブレムを採用したアンダーアーマーのユニホームを着用したスポーツチームの活動であり、現在 13 チームの体育会運動部活動で採用されている。また、同様のスポーツエンブレムを使用した T シャツやポロシャツなどのライセンス商品も大学内の「アンダーアーマー」ストアで販売されており、筑波大学のキャンパスで身につける学生たちが増えている。



5. アスレチックデパートメント構想の開始

テンプレ大学との共同研究は、まず日本国内の大学スポーツが抱える課題の調査から開始した。日本の大学で行われている運動部活動の多くは課外活動であることから「財政的・健康的リスクに対するマネジメントが希薄であり、責任の所在が不明確」「学業支援、経済的支援が限定的」「指導者の質保証ができる構造ではない」「大学の保有する施設、人材等の資源を有効活用することができていない」といった課題を内包することが明らかとなった。

そこで、日本国内の大学スポーツにおいては、「課外活動であるが故のリスク（安全面、会計面、学業面等）の除去」、
「大学スポーツが持つポテンシャルの大学や地域の繁栄への活用」、「<する>だけの大学



スポーツから〈見る〉、〈支える〉大学スポーツにする」という3点について早急に取り組む必要があると考え、それを達成する手段として米国型の「アスレチックデパートメント」の設置を目指すこととした。なお、「アスレチックデパートメント」とは、現在アメリカの大学の多くで設置され、大学における競技スポーツ活動に対する会計、マーケティング、広報、施設管理、学生支援といった業務全般をマネジメントする部局を意味する。

6. チーム球技を中心とした面談の開始

アスレチックデパートメントが直轄して運営をする部活動（AD チーム）として「正課（正式な大学の教育プログラムという意味であり、必ずしも単位取得に関わるものではない）」とする部を選定する上で、候補となる部活動の指導者に対するヒアリングを実施した。

その際にポイントとなったのは、「各運動部活動の運営体制に関する現状把握」、「体育会活動が課外活動であることの問題意識の共有」、「学生の安全や健康を第一に考えられること」、「部の会計を大学に組み込むことができること」、「公共性を持ち、税金で運営される国立大学の施設において縄張り意識や権利意識を持たないこと」、「恵まれた施設の外部への解放や効率的な運営などの有効活用に協力できること」などである。その中で、2018年4月1日に予定する筑波大学アスレチックデパートメントの設置までにAD チームを選定することを目指して継続的な面談を行っていた。

7. アスレチックデパートメント設置準備室のスタート

2017年4月に、共同研究プロジェクトの一部として「筑波大学におけるアスレチックデパートメントの設置・推進」、「日本版NCAAの創設支援」、「スポーツ産業の活性化」、「スポーツアドミニストレーターの育成」、「国際共同研究や企業との共同研究の促進」といった機能を持つ「筑波大学スポーツイノベーション開発研究センター」を設立し、アスレチックデパートメントの設置を本格的に進める中心的な組織としてその設置を目指した。

その中で、2017年8月1日に「筑波大学アスレチックデパートメント設置準備室」を立ち上げるとともに、アスレチックデパートメント設立までの暫定的な責任者と

なる「Transitional Director of Athletics (TDA)」に株式会社ドームの安田 CEO を迎え、また中心となって実務を行うスポーツアドミニストレーターとして2名を雇用した。「アスレチックデパートメント設置準備室」は、「AD チームの決定」、「AD チームと合同で行う〈委員会〉の発足」、「AD チームを大学の〈正式な教育活動〉に組み込む」、「学長直下組織としてスタートする」という4点をアスレチックデパートメント設置の絶対条件として設定し、その中で筑波大学のみならず、全国の大学で展開できるアスレチックデパートメント設立のプロセスを構築するために準備を進めてきた。



8. アンケートの製作と現状確認の開始

筑波大学における体育会運動部活動の抱える現状の課題を把握するとともに全体として共有することを目的として、各運動部活動の指導者を対象としてアンケート調査を実施した。アンケートの内容は、「安全対策・リスク管理」、「成績管理や学業支援」、「会計」、「コンプライアンス」、「監督・コーチの処遇や選手の勧誘」、「スケジュール」、「広報」、「施設」について質問をし、各運動部活動の現状と課題を適切に把握した上で、集約したデータに基づいて具体的な対策を検討するための資料とした。

9. 「AD チーム」との合意

継続的な面談やアンケート調査、練習見学などを通じた「アスレチックデパートメント設置準備室」による選定を基に、「男子ハンドボール」、「女子ハンドボール」、「硬式野球」の3チームが「筑波大学アスレチックデパートメント」の設立と同時に「AD チーム」となる合意に至った。加えて、「男子バレーボール」、「女子バレーボール」についても準備期間を経て加わる準ADチームとなっている。

これらのチームの基準については、米国モデルを元に「チーム」「球技」を初期は選考し、男女を持つチームを優先しながら、特に初期はアスレチックデパートメント

設立前に決断をする必要性から「チームへの利益や不利益が不明確な状態であっても、大学の価値を高めるために一緒に取り組んでいきたい」という意思の強い指導者のいるチームを中心に、競技力や発信力を加味しながら選定を行った。



10. AD 設置準備室 調印式

2017年12月5日に、「男子ハンドボール」、「女子ハンドボール」、「硬式野球」が「ADチーム」となる正式な合意を得るため、「アスレチックデパートメント設置準備室」との間で調印式を執り行った。調印式には学長、各部の部長および監督が出席し、それぞれが「合意書」に署名をすることによって正式な合意とした。「合意書」には、各部がアスレチックデパートメントによって提供される支援と、アスレチックデパートメントに対して負う義務について明記し、合意が交わされた後はその規約に基づいて活動を行うこととした。



11. 学生も含めたADの「ビジョン」「ミッション」の協議開始へ

ADチームが選出されてから最初に行ったことは「ADは学生たちに何を提供すべきか」を明らかにする「ビジョン」「ミッション」の策定である。

2017年末より2018年1月にかけて、筑波大学副学長、アスレチックデパートメン

ト設置準備室、AD チーム指導者および学生アスリートで意見を出し合い、筑波大学アスレチックデパートメントの「ビジョン」と「ミッション」について4度に渡って議論を重ねた。これは、筑波大学のアスレチックデパートメントが「何を目指すのか」ということと、「なんのために存在するのか」ということを決める最重要の過程であり、多様なバックグラウンドを持った参加者の様々な意見の中から「ビジョン」と「ミッション」の中心となる概念やキーワードを抽出した。

この際には、アスレチックデパートメントは「大学のためのもの」であるため、「大学の目指すものは何か」ということを最も大切にされた。「大学の目指すもの」についてアスレチックデパートメントを通して体現し、それによって「大学の価値」を高めることを目指すという共通認識の下で議論をし、検討を重ねた結果、「ビジョン」、「ミッション」共にいくつかの概念にまとめることができた。

まず「ビジョン」については、未来を構想し、その実現に挑むフロントランナーとして「日本中のモデルであり続ける」ということに加え、アスレチックデパートメントがつくばの研究や地域を繋ぐ「架け橋」となって欲しいというキーワードが、特に学生から強く推された。また、筑波大学のブランドイメージを示した「IMAGINE THE FUTURE.」についても、アスレチックデパートメントが目指すものとして参加者の総意が得られた。

また「ミッション」について、これは「アスレチックデパートメントが学生に何を提供するのか」ということであり、「使命」としてどのようなものを持つかを示すものとなる。これについては、「心身共に充実した学生生活」を提供するということがその一つとして挙がり、「筑波大学に来てよかった」、「より成長することができた」と学生に感じてもらうようにするということがアスレチックデパートメントの「使命」となる。「心身共に」という言葉については、米国 NCAA の「ミッション」として示された「Well-Being」を参考にしており、「心」も「体」も、「安全対策」も含めて充実した学生生活を送れるようにするということを示している。

そして「繋がり」。これについても学生から出てきた言葉で、アスレチックデパートメントを通して様々な繋がりを学内外に提供していくことを示している。部活動を横断した学生アスリートの交流や一般学生との繋がり、あるいは地域や企業関係者との繋がりを構築することによって、大学の持つ資源の価値や可能性を最大化することが、アスレチックデパートメントの大きな「使命」であろうという結論に達した。

加えて、人材育成という面について「師魂理才」という言葉が挙げられた。これは筑波大学の人材育成に対する考えを示したものであり、「親や先生のように人に接する心や人々をまとめる力を持ち、かつ合理的な問題解決の才能を持つこと」を意味したものである。アスレチックデパートメントにおいても、この「師魂理才」の精神を持って、人材育成に取り組むべきだろうと考えている。

このような形で「ビジョン」と「ミッション」をまとめて来たが、その中で挙げたキーワードとして「繋がり」や「架け橋」といったようなキーワードがあったことから、「アスレチックデパートメント設置準備室」だけで決めてしまうのではなく、筑波大学内の様々な部局と連携をしながら、大学全体として創り上げたいという思いがあった。そこで、最終的な「言葉」としてこの「ビジョン」と「ミッション」を確定させるために、2018年度「芸術専門学群」の「授業」を通して共同で創り上げていくことを決め、その準備を進めている。

そして、共同で創り上げた「ビジョン」と「ミッション」に基づいて2018年中に「マスコット」と「ニックネーム」も作成し、筑波大学及び、各競技チームの象徴となるものを生み出していくことを計画している。なお、最終的な決定方法については「投票」なども含め、「繋がり」を意識しながら準備していく。



12. 繰り返しの協議による課題の洗い出し

アスレチックデパートメントに関する様々なことを議論するために「ADチーム」と合同で実施する「委員会」も立ち上げ、ADが取り組むべき課題についても議論を重ねた。「委員会」によって具体的な施策を決めていく際には、大学内の様々な部局と連携をしながら議論を進め、学生アスリートの「学業基準」「健康・安全性の管理」「コンプライアンス」等についても話し合いを展開した。

「学業基準」については、どのような基準を設け、どのようにその基準に基づいた支援を提供するのか。学生アスリートが競技と学業を両立させながら学生生活を送ることができるのか。ということ念頭に議論を進めてきた。しかし、米国で用いられている「GPA」や「取得単位数」などを参考に検討を行っているものの、各運動部活動が全体としてどのような状況にあるのかを把握していない状態では適切な基準を設定することができない。そのため、2018年度には学生アスリートの学業成績について「把握」し、学生の状況に応じて2019年度より支援する体制を整えていく。

「健康・安全性の管理」については、アスレチックデパートメントとして学生アスリートへの医療サポートや共通の規則などの整備を通して、健康かつ安全な学生生活を提供する必要がある。「課外活動」として運営されている運動部活動では、財政的な限界から競技活動中の安全管理について統括的に管理を行う「アスレチックトレーナー」の雇用や、「医療施設との連携」を含めた管理体制の構築が不十分なまま活動が行われている現状にある。しかし、大学の正式な教育プログラムとするにあたっては、活動に参加する学生の安全性が保証されるべきである。そこで現在、筑波大学における「スポーツ医学」の専門家、および「大学病院」を始めとした医療施設との連携によって「アスレチックトレーナー」の雇用や安全管理体制の構築に取り組んでいる。

また、「コンプライアンス」については、アスレチックデパートメントとして大学内の総務部と連携をしながら、学内における既存のルールに則って運営を行っていく必要がある。その上で「委員会」での議論に基づき、必要に応じて新たな規則の制定や既存の規則の改訂を働きかけることも視野に入れながら検討を進めていく。

これらのことについてはアスレチックデパートメントの独断で決めることができないため、「委員会」での議論に加えて大学の関係部署と調整をしながら決めていく必要がある。

また、アスレチックデパートメント、及び「ADチーム」を「正式な教育活動」として大学の会計にも組み込むという点については、大学の財務部で部活動の財務諸表に出る仕組みを作る必要があり、部、大学ともに段階的な統合を行う必要があるため、様々な協議を重ねていく。

そして、筑波大学にアスレチックデパートメントを設置する際に最も重要なポイントとして考えたのが、部局を「学長直下組織」として設置することである。

2018年度についてはまず「国際産学連携本部」の中にアスレチックデパートメントを設置することとし、2019年度より学長直下の組織としてスタートするという方向で準備を進めていく。

15. アスレチックデパートメントの部局開設へ

2018年4月からの体制については、テンプル大学との共同研究を通して行った調査に基づいて抽出し、国内の大学への適用が適当と思われる組織構造モデルを用いて検討を進めてきた。アスレチックデパートメントの部局開設に際しては、アスレチックデパートメントの最高責任者として「アスレチックディレクター」を任命し、その下に「副アスレチックディレクター」を任命する。

また、アスレチックデパートメントの機能として「エクスターナル（外部担当）」と「インターナル（内部担当）」、そして「スポーツアドミニストレーション」を設定し、その中で実務に従事するスポーツアドミニストレーターや人員を配置する。各部門の下には「アシスタント」と「インターン生」を配置することも予定している。筑波大学では、アスレチックデパートメントの活動を通して様々な経験を得ることを望む学生が非常に多いことから、「インターンシップ」という形で学生の力を借り、学生との繋がりを深めながら運営を行なっていくことを目指している。

これらの取り組みを経て、2018年4月1日、筑波大学はアスレチックデパートメントを開設することを正式に決定した。



◆ 分析と今後の展望

「アスレチックデパートメント設置準備室」を2017年8月1日に設立して以降、2018年4月1日のアスレチックデパートメント設置を目指して「委員会」や関係者との議論を進めてきた。

本文をご覧頂ければわかる通り、アスレチックデパートメントは現在もまだまだ準備段階である。アスレチックデパートメントとしての「ビジョン」と「ミッション」については、「芸術専門学群」との連携を通して明確な「言葉」として表現する計画であるため、未だ完成には至っていない。しかし、様々な背景を持った「委員会」の参加者からの意見を集約した結果として、筑波大学のアスレチックデパートメントは「筑波大学が大学スポーツにおけるモデルとなり続けることで、日本の大学スポーツを変革すること」を目指し、「心身共に充実した学生生活の提供」、「大学スポーツを通じた人材育成」、「スポーツを超えた繋がり創出」といった「使命」を持って活動を行なうという方針を得ている。

これらは暫定的な「ビジョン」と「ミッション」ではあるものの、2018年度についてはこの方針に基づいて活動を展開していくに十分な協議であった。そして、これらを達成するためには、前述の「結果」を踏まえた上で、これらの「ビジョン」と「ミッション」をどのように達成していくのかを検討する必要がある。

そのための取り組みとして、五つの取り組みを整理している。

第一に、「課外活動」として行われている体育会運動部活動を「正式な教育活動」として大学に明確に位置付け、マネジメントを行うことで、安全性を含めた種々のリスクを軽減するとともに、大学の保有する施設や人的資源の価値を最大化することである。

第二に、アスレチックデパートメントと「ADチーム」の連携によって、大学の内外に向けた積極的なマーケティングを行なっていくことである。「ユニフォーム・カラーの統一」や「スポーツエンブレム」「ビジョン」「ミッション」「ニックネーム」「マスコット」といった「ビジュアル・アイデンティティ (VI)」の制作は、まさに各チーム、および筑波スポーツ全体の「ブランディング」と密接に結びつき、「学生」はもちろんのこと、「教職員」、「卒業生」、「保護者」、「地域住民」、「高校生」、「地元企業」などのステークホルダーに、統一された質の高い「ブランドイメージ」を根付

かせることに寄与するものである。

第三に、メディアを通じた「発信力が高まる」ということである。このような好循環を生み出すことによって、筑波大学そのものの「ブランド価値」を高め、「スポーツ」のみならず「研究」、「教育」、「社会貢献活動」といった筑波大学のあらゆる活動への社会的関心を集める装置として大学スポーツを機能させられる可能性がある。

第四に、筑波大学が計画している「アリーナ」を中心としたキャンパスデザインを構築することによって、「学生」をはじめ、「教職員」や「地域住民」、さらには「卒業生」に対して大学スポーツを通じた「特別な体験の共有」を価値として提供していくことである。それによって大学スポーツを中心とした新たなコミュニティを形成し、学生だけでなくあらゆる大学のステークホルダーにおける「繋がり」を醸造する「場」と「機会」の創造を目指す。

第五に、各チームと大学の「ブランド価値」を高めると共に、学内外のステークホルダーに対して積極的なマーケティングを行うことによって、アスレチックデパートメントとパートナーシップを組む「スポンサー」の「社会的認知」と「ブランド価値」の向上を図り、これを「スポンサー」に提供する価値として「無形の利益」を共有することである。それによって、アスレチックデパートメントと「スポンサー」が相乗的に互いの「ブランド価値」を高めるパートナーとして協力する関係を築くことが可能となる。

筑波大学のアスレチックデパートメントでは、これらのことを達成するためのシステムを構築するにあたって、4年間の中期計画を策定している。



◆ おわりに

この度はご拝読を賜り、誠にありがとうございます。

本レポートの通り、筑波大学のアスレチックデパートメントは日本初の新しい取り組みであり、多くの時間と労力のかかるプロジェクトであることに疑いはありません。しかし、全ての学生が学生生活に「満足」とともに「誇り」を持ち、「社会のリーダーとなる資質」を身につけて社会へ旅立つことができるよう、「スポーツ」がその役割の一部を明確に担うべく、取り組んで参ります。

来たる未来の変化を知り、意識し、経営の骨組にし、教育改革に踏み出す。そして「次世代の新しい教育貢献」を創造する。従来 of 伝統や仕組みを尊重した上で、これからの時代に不可欠な新しい取り組みにチャレンジする意志を持つことができれば、極めて大きな機会を創出することができる時代です。

是非、筑波大学のアスレチックデパートメントに大いにご期待ください。

